

バイオマス利活用の 取り組みにより

甲賀市が優良表彰授賞



このたび、甲賀市が「バイオマス利活用協議会会長賞」を授賞し、2月13日(火)京都市で開催された近畿地区バイオマスセミナーの席で表彰の伝達されました。

▼甲賀市生ごみ堆肥化事業 ▼廃食油BDF利用

この表彰は毎年、農林水産省が、地域におけるバイオマス利活用の取り組みにより環境配慮への関心が高い自治体や、先進的な技術等を活用した取り組みによりバイオマスの全国普及を推進する企業や団体を対象に実施されるものです。

現在、生ごみ堆肥化事業への参加世帯数は5771世帯(平成18年12月末現在)、また、今年度にBDFとして精製し再利用された廃食油は12,090リットルとなっています。資源循環型社会のまちづくりを旨とし、今後この取り組みに多くの皆様のご参加を願います。

※バイオマス

家畜排せつ物や生ごみ、木くずなどの動植物から生まれた再生可能な有機性資源のこと。

※BDF

廃食用油を再生し、ディーゼル車の代替燃料などに使用するもの。

問い合わせ 環境課

☎ 65-0690

FAX 63-4582

北脇遺跡で 古代の印鑑が出土



市では、昨年11月から水口町北脇で民間開発に伴う発掘調査を実施していました。

この調査では平安時代前期(9~10世紀)の溝などの遺構を確認するとともに滋賀県で6例目となる印鑑が出土しました。

印鑑は青銅製の铸造品で、印面の一辺は3.5cm、高さ3.0cm、重さが64gあり、持ち手の頂部は平滑で分銅形をしています。また、印面には「徳西庶家」の4字が刻まれ、4文字の印鑑の出土例は滋賀県では初めてです。

水口町泉・北脇周辺には古墳時代の遺跡が点在し、古代の中心であったことが判っていますが、それ以降の甲賀の歴史は謎に包まれています。

今回の印鑑が見つかったことで、その空白の時代の解明が進み始めました。

当時の印鑑は、現代のように大勢の人が持つものではなく、権力や財力の象徴としての意味が強かったと考えられ、北脇近隣に古文書などには記録されていない有力豪族が存在していたと推測できます。

また、「徳西庶家」の解釈については幾つかの説がありますが、現在の泉・北脇周辺に「徳地」姓が多いことや、中世に書かれた山中文書に「徳地」という人名が確認できることから、「徳西」の「徳」が「徳地」を表す可能性があり、「徳西庶家」は徳地本家に対して、西側に位置する庶家(分家)を指すことも考えられます。

さらには西側隣接地の北脇遺跡第4次発掘調査で見つかった鍛冶工房との関連性や近隣の春日における緑釉陶器の生産と連動する可能性が考えられ、今後の調査の進展に期待したいと思います。

■出土した「徳西庶家」の印鑑
印なので文字が逆になっています。また持ち手の部分には細かな装飾が施されています。

問い合わせ

文化財保護課 埋蔵文化財係
☎86-8026 FAX 86-8380